

佐賀県研究成果情報（作成 2021 年 2 月）

[情報名] ブドウ晩腐病菌の薬剤感受性

[要約] ブドウ晩腐病に登録のある 9 剤のうち、テブコナゾール水和剤は感受性が高いものの、他の薬剤については感受性の低い菌株が認められる。

[キーワード] ブドウ、晩腐病、殺菌剤、薬剤感受性

[担当] 果樹試験場・病害虫研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹病害

[背景・ねらい]

ブドウ晩腐病はブドウの果実に被害を及ぼす重要な病害である。近年、収穫時期に発生して問題となっており、防除薬剤の効果低下が懸念されている。そこで、ブドウに登録のある殺菌剤について、晩腐病菌に対する薬剤感受性の調査を行い防除対策の資料とする。

[成果の内容]

- 1．供試した全ての菌株は、テブコナゾール水和剤に対して感受性が高い（表 1）。
- 2．供試した菌株のうち 1 菌株のみ、ベノミル水和剤、アゾキシストロビン水和剤、ピリベンカルブ水和剤に対して感受性が低い（表 1）。
- 3．供試した菌株のうち複数（2～5）の菌株は、マンデストロビン水和剤、シプロジニル・フルジオキシニル水和剤、クレソキシムメチル水和剤に対して感受性が低い（表 1）。
- 4．供試したすべての菌株は、フルジオキシニル水和剤、シモキサニル・ファモキサドン水和剤に対して感受性が低い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本試験では、令和 2 年 9 月に伊万里市内の異なる圃場から採取・分離されたブドウ晩腐病菌 6 株を用いた。
- 2．各種薬剤を常用濃度で加えた PDA 培地（QoI 剤は SHAM1000ppm 添加）に、各菌株の菌叢ディスクを静置し、3 日後に生育した菌叢の直径を測定して菌糸生育率（無添加培地での菌糸生育を 100 とした場合の薬剤添加培地での生育率（%））を算出した。
- 3．菌糸が伸長しなかった菌を感受性が高い菌、菌糸が伸長した菌を感受性が低い菌とした。
- 4．培地上での試験であるため、今後圃場試験の効果を確認する必要がある。

[具体的なデータ]

表1 各種薬剤添加培地における各ブドウ晩腐病菌株の菌糸生育状況

一般名 (商品名)	希釈倍率	調査菌 株数	菌糸が 生育した 菌株数	菌糸生育率(%)		系統
				平均	(最小値-最大値)	
テブコナゾール水和剤※ (オンリーワンフロアブル)	2000倍	6	0	0	(—)	DMI
ベノミル水和剤※ (ベンレート水和剤)	2000倍	6	1	3.5	(0.0 ~ 21.0)	ベンゾイミダゾール系
アゾキシストロビン水和剤※ (アミスター10フロアブル)	1000倍	6	1	8.2	(0.0 ~ 49.0)	QoI
ピリベンカルブ水和剤 (ファンタジスタ顆粒水和剤)	3000倍	5	1	1.6	(0.0 ~ 8.0)	QoI
マンデストロビン水和剤 (スクレアフロアブル)	2000倍	5	4	6.8	(0.0 ~ 23.1)	QoI
シプロジニル・フルジオキシニル水和剤※ (スイッチ顆粒水和剤)	2000倍	6	5	4.1	(0.0 ~ 8.8)	フェニルピロール系+アクリルピリミジン系
クレスキシムメチル水和剤※ (ストロビードライブフロアブル)	2000倍	6	5	7.6	(0.0 ~ 36.0)	QoI
フルジオキシニル水和剤 (セイビアーフロアブル20)	1000倍	6	6	19.3	(11.8 ~ 35.5)	フェニルピロール系
シモキサニル・ファモキサドン水和剤※ (ホライズンドライブフロアブル)	2500倍	5	5	38.8	(21.8 ~ 60.1)	オキサゾリジンジオン系+QoI

注1) 各種薬剤を常用濃度で加えたPDA培地(QoI剤はSHAM1000ppm添加)に、各菌株の菌叢ディスクを静置し、3日後の菌糸生育率(無添加培地での菌糸生育を100とした場合の薬剤添加培地での生育率(%))を調査した。

注2) ※: 栽培暦、防除のてびきに記載のある薬剤

注3) 菌糸が伸長しなかったものを感受性が高い菌、菌糸が伸長したものを感受性が低い菌とした。

[その他]

研究課題名：果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2018年～2022年

研究担当者：近藤知弥・衛藤友紀・池田亜紀